

4月からオープン 身近な憩いの場

元町公園を改修

昭和初期へあなたもタイムトリップ

元町公園は歴史ある公園です

元町公園は、関東大震災後の帝都復興計画に基づいて、旧東京市が昭和5年に設置・開園した小公園です。

この復興計画では、アメリカのカゴ市に習い、各小学校に隣接した敷地に、デザインの異なる52か所の小公園を設置しました。これらは、公園を愛する心を育て、休養・運動の場として、また、災害時には避難場所にもなるという主旨で設置されたものです。

しかし、これらの公園は、第二次世界大戦中に金属類の供出ということで美しくデザインされた門扉や柵などが失われていきました。

戦後、これらの公園は各区に移管され、あわただしい世相の中で、ほとんどの公園が大規模改修により、その姿を変えていきました。

このような歴史の中で、元町公園は開園当時の姿を残している唯一の、そして、造園史上極めて貴重な公園です。

開園当時の姿に復原しました

旧東京市発行の案内書や旧設計図面等を参考に、また、古くから地元に住んでいる方々の写真などを資料として、元町公園を開園当時の姿に復原しました。

これからの季節、この公園にはコ

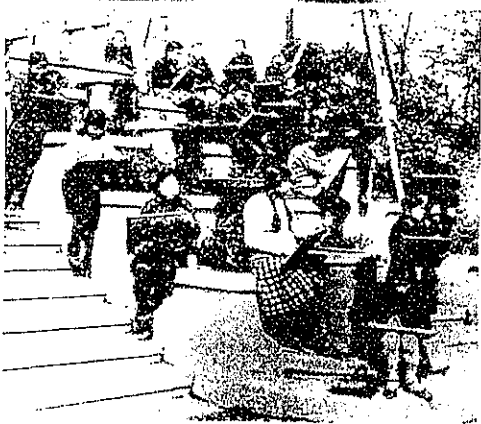
デマリやレンギョウをはじめ、ツツジ・サツキなどの花が咲き、また、秋には椎の実を拾うこともできます。

どうぞ、身近な憩いの場として、古くて新しい元町公園へ足を運んでみてください。

◎問合せ 公園緑地課工事係内線 490・491



西側小広場
造園図書でも紹介



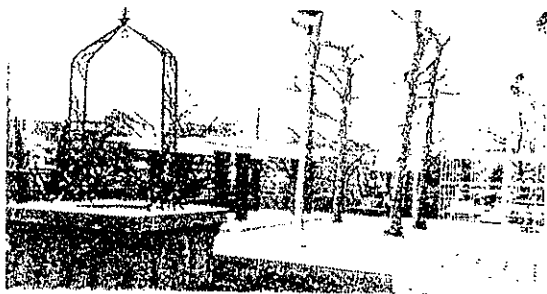
▲昭和7年当時の写真風景(写真提供波多野堅吾氏)



正門入口

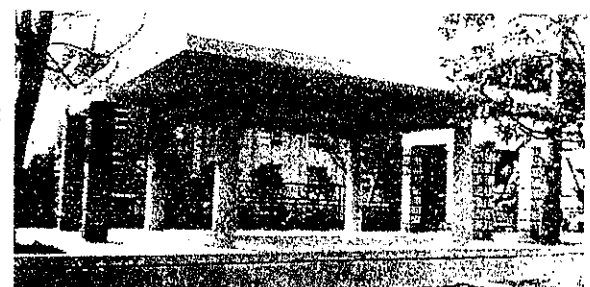
昭和モダンブームのタイムトンネル

神田川沿いの旧市電通りからの入口は、ドイツの造園雑誌を参考に設計されたのですが、デザインの源流はイタリア・ルネサンス式庭園の流れをくむものです。サツキの丘にはさまれた階段を昇ると、正面にアーチ模様の壁があり、小さな噴泉が東西小広場への階段を分け、皆さんを古い時代の世界へと誘います。



児童遊戯場と東門
不変のデザイン

児童遊戯場として設けられた小広場には、ブランコ・滑り台・砂場などがありました。また東門と甲型の外柵は、美しく斬新なデザインでしたが、開園十数年後、金属類供出により失われました。今回は旧設計図面を資料に東門門柱と甲型外柵を復原しました。

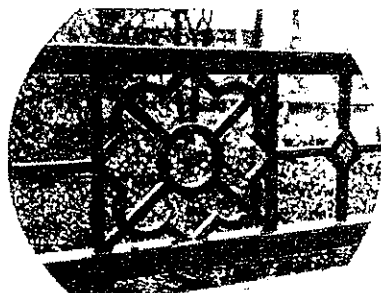


自由広場

歴史をみてきた広場

震災復興公園の設計主旨に基づき、約900平方メートルの自由広場を設置し、その広場西端には、大型の藤棚休憩所があり、また、円形動物舎では小鳥を飼育していました。

この広場は、戦時中は防空訓練に、また戦後はラジオ体操にと、時代の世相を反映して様々な使われてきました。藤棚休憩所の復元のほか、今回新たに児童遊戯場との境界柵を設置しました。



東側小広場

新たな夢をこめて

西側小広場と対をなす広場で、藤棚・ジャングルジムなどがあります。材料簡便として使われていた東奥の敷地には、新たに飾り井戸を中心とした露床を設けました。この飾り井戸は、古い西洋庭園などによく見られる修景施設です。また植栽も西洋風の趣きを生かすため、スカイロケット・コノテガシワなどのコニファー類を植えました。